

礼拝

令和3年11月8日
7号

読書の習慣をつけよう ~11月の月間目標~

仏教は読書と実践の教え

私たちが、知らなかったことや新しいアイデアを学んだり、より深く物事や歴史を探究しようとするとき、身近で手軽な方法として図書館の利用があります。図書館でそろえて下さっている本を読んだり、資料を使った学びのことで、自分が今学びたいことを手に入れることができるのです。さらに、ただ物事を調べただけではなく、実際の生活の中に考え方や様式を取り入れて活動することで、私たちの生活はより豊かで深みのあるものになっていくものです。

私たちが学ぶ京都文教中学校・高等学校は、仏教の教えを建学の精神や校訓として大切にしてい

ます。その仏教の教えとは、「お経」という本を読み、その教えを生活に取り入れ、より良い自分を作り上げていく「実践」の教えなのです。お経の中には、人として守るべき事ややってはいけないこと、日々の自己を振り返り反省をして後の生活につなげていくことなどが、時には具体的に、時にはたとえ話として書かれています。

お釈迦さまがお悟りを開かれ、その教えを弟子たちに直接説かれていた時代にはお経はなかったそうです。ですからお弟子たちはお釈迦さまの教えを、全力で受け止め、その教えに即した生活をしてきたことと思います。お釈迦さまが涅槃に入られた後、記憶力の良い弟子が覚えていたことをもとにして、お釈迦さまの教えを確認しあっていたようですが、時間が経つにつれ、お釈迦さまから直接教えを聞いた弟子もだんだんと減り、教えを書き留めておくべきだという考えが生まれました。こうして七千余巻のお経という本ができあがったのです。その本はインドから中国そして日本へと伝えられ、私たちが現在見聞きできるお経となりました。その中に「観無量寿経」という経典があります。このお経を読んでいる声を聴いただけでは、何を言っているのかもわからないし、ましてや意味などわかるものではありません。例えば、私たち

が人として守るべき十の約束として、

- ① 不殺生
- ② 不偷盗
- ③ 不邪淫
- ④ 不妄語
- ⑤ 不飲酒
- ⑥ 不説四衆過
- ⑦ 不自讚毀他
- ⑧ 不慳惜加毀戒
- ⑨ 不瞋心不受悔
- ⑩ 不誑

三宝と記された箇所があります。文字から何となく意味がわかるものもありますが、簡単な言葉にすると次のようになります。①すべての命を尊び、衣食住において無駄のない生活をする。②他人の物を盗み、努めを怠り、信用を裏切らないこと。③男女各々その分を守り、互いに貞節を尊び、欲にまかせた行動をしないこと。④嘘、偽りのない言動。⑤自分を見失わず、自ら謹んで、他人に迷惑をかけないこと。⑥家族や友人を含め、他人の悪口を言わないこと。⑦自らを褒め称え、他人をけなさないこと。⑧物惜しみをし、他人に危害を加えないこと。⑨いかなる時も腹を立てずに、他人の過ちを許すこと。⑩京都文教中学校・高等学校の校訓である三宝を敬って悪く言わず、明るく正しく仲良く生活すること、これらすべてのことを誓う、となります。

このように、その解説を読めば簡単な内容であり、実践できる教えであることがわかると思います。

世の中には実に様々な本が出版されています。読書をして、皆さんの生活に取り入れて実践してみたいかがでしょうか？きっと豊かな生活が待っています。